

- 問1 平安時代中期から安土桃山時代にかけて、武士が政治の主導権を握っていく過程で起きた次の4つの出来事を、発生した時期の古い順に並べたものとして正しい説明を選びなさい。1. 平将門が関東で反乱を起こし、「新皇」と称した。2. 平清盛が武士として初めて最高官職である太政大臣に就任した。3. 北条泰時が、御家人の裁判の基準を明確にするため御成敗式目を制定した。4. 織田信長が、室町幕府の將軍であった足利義昭を京都から追放した。(2015年 岡山県公立入試 類似)
1. 「平清盛の太政大臣就任」→「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」
2. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」
3. 「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」
4. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」→「御成敗式目の制定」
- 問2 戦国大名の本拠地として発達した「城下町」の形成と役割について述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2017年 大分県公立入試 類似)
1. 農民が武器を持って城下町に集まることを推奨し、有事の際の防衛力を高めた。
2. 戦乱による被害を避けるため、城の周囲には武士のみを住ませ、商人には立ち入りを禁じた。
3. 海外との貿易を独占するため、すべての城下町は海岸沿いの港町に隣接して造られた。
4. 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住ませ、政治・軍事・経済の拠点とした。
- 問3 1549年に鹿児島へ上陸し、日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師は誰か。(2017年 北海道公立入試 類似)
1. ルイス＝フロイス
2. フランシスコ＝ザビエル
3. マテオ＝リッチ
4. ヴァリニャーノ
- 問4 14世紀から15世紀にかけて、室町幕府の支配力が次第に弱まり、幕府の権威が失墜していきました。このような社会情勢の中で、下の者が実力で上の者を倒して地位を奪う風潮が広まりましたが、この風潮を何と呼びますか。(2024年 秋田県公立入試 類似)
1. 大政奉還
2. 下剋上
3. 尊王攘夷
4. 門閥政治
- 問5 越前国の戦国大名である朝倉氏が、拠点である一乗谷を中心とした領国支配を強めるために実施した政策の説明として、最も適切なものはどれですか。(2024年 滋賀県公立入試 類似)
1. 室町幕府の法令のみを遵守させ、独自の法による支配を一切行わなかった。
2. 一乗谷を商業専用の都市とし、家臣が居住することを厳しく制限した。
3. 家臣を一乗谷に集住させ、領内に勝手に城を築くことを禁止した。
4. 家臣をそれぞれの所領に住ませ、各地に防御のための城を自由に築かせた。
- 問6 南蛮貿易によってもたらされた鉄砲と、当時の都市の関わりについて述べた文として、背景や理由を含めて正しく説明しているものはどれですか。(2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された
2. 江戸幕府の成立まで鉄砲の国内生産は禁止されていたため、長崎の出島を通じてのみ取引が行われた
3. 寺院が鉄砲の製造を独占したため、鉄砲の生産拠点となった都市では宗教勢力による支配が強まった
4. 鉄砲の製造に必要な火薬の原料が国内で豊富に採れたため、城下町ごとに小規模な自給自足の生産体制が整った
- 問7 16世紀半ばにキリスト教が日本に伝えられた当時の社会情勢や、その後の歴史的経緯について述べた文として、最も適切なものはどれか。(2020年 沖縄県公立入試 類似)
1. フランシスコ・ザビエルによる布教以降、南蛮貿易の利益を求める戦国大名の中には、キリスト教に入信するキリシタン大名が現れた。
2. 豊臣秀吉は海外貿易の利益を重視し、パテレン追放令を出した後もキリスト教徒を一貫して手厚く保護し続けた。
3. 当時の日本は鎖国体制が完成しており、ヨーロッパ諸国のうちイギリス一国とのみ、長崎の出島で貿易を行っていた。
4. 織田信長は仏教勢力との対抗を優先し、キリスト教の布教を厳しく禁じてキリスト教徒を弾圧した。
- 問8 1543年、九州の南側に位置する種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について述べた文として、正しいものはどれですか。(2017年 神奈川県公立入試 類似)
1. この武器の伝来と同時にフランシスコ・ザビエルによってキリスト教が日本に広められた。
2. この武器は弓矢と呼ばれ、従来の騎馬武者による一騎打ちをより重視させるようになった。
3. この武器は高度な技術が必要だったため国内での製造ができず、終始輸入に頼っていた。
4. この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化させた。
- 問9 將軍のあとつぎ問題などを原因として1467年に発生し、約11年間にわたって続いた戦乱は、幕府の力を決定的に弱め、社会全体に「下剋上」の風潮を広める大きな契機となりました。この戦乱の名称を選びなさい。(2020年 千葉県公立入試 類似)
1. 承久の乱
2. 島原の乱
3. 応仁の乱
4. 観応の擾乱
- 問10 戦国大名の朝倉氏が定めた分国法（領国内の法律）の中には、家臣は自分の領地に城を構えることを禁止し、大名の本拠地である一乗谷に集まって住むべきことや、各地の統治には代わりの役人を配置することなどが記されています。このように、戦国大名が家臣を強制的に呼び寄せ、あわせて商工業者を集めることで経済の活性化を図った、領国の政治・経済・文化の中心地を何と呼びますか。(2023年 広島県公立入試 類似)
1. 城下町
2. 港町
3. 門前町
4. 宿場町
- 問11 1549年にフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸して日本に伝えたキリスト教について、その宗派と布教を担った組織の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2017年 徳島県公立入試 類似)
1. プロテスタントー清教徒（ピューリタン）
2. プロテスタントーイエズス会
3. カトリックーイエズス会
4. カトリックー十字軍
- 問12 16世紀の記録において「長さ二、三尺の筒状の道具で、火を放つと雷のような音がする」と描写された武器が、日本の築城技術に与えた影響として正しいものはどれですか。(2017年 神奈川県公立入試 類似)
1. 鉄砲の射程距離を避けるために、城はすべて人里離れた険しい山頂にのみ築かれるようになった。
2. 鉄砲による火災を防ぐため、城の周囲に広大な水堀を作るのをやめ、空堀が主流となった。
3. 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。
4. 鉄砲の重さに耐えられるよう、城の主要な構造物がすべて巨大な岩石のみで作られるようになった。
- 問13 戦国時代の越前国（現在の福井県）を支配した戦国大名の朝倉氏は、一乗谷を拠点として領国支配を行いました。このように、戦国大名が領国内を独自に統治するために制定した法を何といいますか。(2024年 滋賀県公立入試 類似)
1. 分国法
2. 武家諸法度
3. 御成敗式目
4. 建武式目

答え合わせ・解説

問1	答え 2 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」	平安時代中期の10世紀に起きた平将門の乱は、武士の実力と地方勢力の台頭を象徴する出来事です。その後、12世紀後半に平清盛が平氏政権を樹立し、武士として初めて太政大臣となりました。鎌倉時代の1232年には、承久の乱後の社会混乱を収めるため北条泰時が御成敗式目を制定しました。そして戦国時代末期の1573年、織田信長が足利義昭を追放したことで室町幕府は滅亡し、中世から近世へと時代が大きく動くことになりました。
問2	答え 4 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住まわせ、政治・軍事・経済の拠点とした。	戦国大名は、それまで各地の領地に散らばっていた家臣を城の周囲に集住させることで、軍事的な動員を容易にし、統制を強めました。また、商工業者も呼び寄せることで、武器の製造や物資の流通を活発化させ、領国の経済を発展させました。これが後の近世都市の原型となりました。
問3	答え 2 フランシスコ＝ザビエル	スペイン出身でイエズス会の創立会員の一人です。インドのゴアで出会った日本人アンジロウ（ヤジロウ）の案内で来日しました。その後、平戸や山口、豊後（大分）などで布教活動を行いました。ルイス＝フロイスは後に来日し『日本史』を記した人物、ヴァリニャーノは天正遣欧少年使節の派遣を勧めた人物であり、活動時期や内容が異なります。
問4	答え 2 下剋上	応仁の乱以降、室町幕府の將軍や守護大名の権威が低下したことで、実力を持つ家臣や国人が主君を追放して自ら領地を治める動きが全国で見られるようになりました。この現象は戦国時代の大きな特徴であり、新たな支配者である戦国大名が誕生する要因となりました。
問5	答え 3 家臣を一乗谷に集住させ、領内に勝手に城を築くことを禁止した。	朝倉氏は一乗谷に家臣を集めて住まわせることで、家臣がそれぞれの領地で独立した勢力を持つことを防ぎ、主君による直接的な統制を強めようとしていました。また、家臣が勝手に城を築くことを禁じた点も、大名への権力集中を図る戦国大名特有の政策といえます。このような集住政策は、後の江戸時代の城下町の形成にもつながる先駆的な取り組みでした。
問6	答え 1 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された	堺は古くから鋳物や刀剣の製造が盛んであり、その高い技術力が鉄砲の量産を支えました。また、堺は「会合衆」と呼ばれる豪商たちによる自治が行われていた自由都市であり、特定の戦国大名に完全に支配されることなく、各地の大名を顧客として鉄砲を販売することで大きな利益を上げ、さらに都市として発展しました。
問7	答え 1 フランシスコ・ザビエルによる布教以降、南蛮貿易の利益を求める戦国大名の中には、キリスト教に入信するキリシタン大名が現れた。	キリスト教の布教は、ポルトガルやスペインとの「南蛮貿易」と密接に結びついていました。鉄砲や火薬、生糸などの物資を得るために、九州を中心とした戦国大名は布教を許可し、自らも入信するケースが見られました。織田信長は布教を保護しましたが、その後の豊臣秀吉や江戸幕府は、キリスト教が封建的な支配体制を揺るがすことを恐れ、禁止へと方針を転換しました。
問8	答え 4 この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化させた。	1543年に種子島へ伝来した鉄砲は、それまでの武士個人による一騎打ちから、足軽の集団が鉄砲を一斉に射撃する戦術へと戦い方を一変させました。鉄砲はその後、堺（大阪府）や国友（滋賀県）などで国産化が進み、全国の戦国大名へと普及しました。なお、キリスト教の伝来は1549年であり、鉄砲の伝来とは時期や経緯が異なります。
問9	答え 3 応仁の乱	この戦乱によって政治の中心地である京都が荒廃し、將軍や幕府の権威が失墜しました。その結果、地方の武士たちが幕府の指示を仰がずに実力で領地を奪い合うようになり、下剋上の世の中、すなわち戦国時代へと突入していきました。
問10	答え 1 城下町	戦国大名は、それまで自分の領地に城を持っていた家臣たちを、大名の居住する本拠地に集まって住まわせる「集住（しゅうじゅう）」を進めました。これにより家臣の反乱を防いで統制を強めるとともに、商工業者を呼び寄せて物資の流通を盛んにしました。福井県の一乗谷（朝倉氏）や、山梨県の甲府（武田氏）などがその代表的な例です。
問11	答え 3 カトリックーイエズス会	日本に最初に伝わったキリスト教は、ローマ教皇を中心とするカトリック教会の一派である「イエズス会」によるものでした。当時、ヨーロッパでは宗教改革によって新教（プロテスタント）が勢力を伸ばしており、これに危機感を抱いた旧教（カトリック）側のイエズス会が、アジアなどへの布教を通じて信者を増やそうとしていました。
問12	答え 3 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。	鉄砲の普及は、城のあり方を大きく変えました。それまでの簡素な「山城」から、鉄砲の攻撃に耐えうる強固な石垣や、敵を迎え撃つための窓（狭間）を持つ天守などを備えた「平城」や「平山城」へと進化しました。これにより、城は軍事拠点としてだけでなく、領主の権威を象徴する政治的中心地としての役割も強めることとなりました。
問13	答え 1 分国法	戦国大名は、室町幕府の力が衰える中で、自らの領国を独自に統治する必要性に迫られました。そのため、家臣同士の争いの禁止や領民の管理、軍役の規定などを定めた「分国法（領国法）」を制定しました。朝倉氏のほか、今川氏の今川板名目録や武田氏の甲州法度之次第などがある名です。